

東郷村報

第100号

昭和35年3月10日
発行所 宮崎県東臼杵郡
東郷村役場
日向市富高
安藤印刷所
電話 64番

村報第百号の発刊に当りて

村長 黒木 松美

昭和二十五年五月、初声をあげた「東郷村報」は年を経ること十年、号を重ねること百号、誠によろこばしいこととあります。

初め村報を発行した所以のものは村政の一部でも村民の皆さまに知っていただきたいとの念願からでありました。従って発行もその必要に応じてし数部も僅かに五百部に過ぎませんでした。その後村民の間により「村報」に関心をもちたいと、その性格を異にして公的な使命を多分に有していただく必要を感じて、昭和二十七年七月からは毎月発行とし部数も一干部に増加し二部が一枚の割で配布しました。村民の皆さま方から各戸に一枚配布するよう要望もありましたので一昨年から二、二〇〇部と各戸に一部宛配布するとともに本村出身で村外に居住する方や遠く就職している青年達に送

村報百号刊行にあたって

小野 弘

村報も生れて小学校へ入学する歳を経たのである。昭和二十五年と云えば、終戦の混乱がようやく平静となり、そして、自分自身の姿がおぼろにみえはじめた時なのである。然し日本の独立は許されず、町村の行政も当時進駐軍の協力機関で少くも自主性がなく、唯々諸々として命令の儘、其日を過すと云った誠にけなげな状態であった。次ぎに改革されてゆく行政の変貌はこれを受入れる町村はよいとしても、一般住民は恐らく何が何やらわからなかつたに相違ない。

東郷村報百号記念号に寄せて

坪谷 陶山 勲

二月十七日役場で東郷小学校長に教育長から村報の原稿用紙を渡され、私も渡すこととされるので何するのかと聞きますと、東郷村報が百号になったので記念号を発行するから「記念号に寄せて」を書いてくれとのことでした。東郷村報は最早百号になったのか、よ

国民年金証書交付さる

この度新しくできた国民年金制度は全国民が老令、廢疾及び死亡によつてその生活がそなわられることを未然に防ぎ健全な生活の維持に寄与することを目的とし、農林漁業者、零細企業の被用者等を含む零国民を対象としたものであります。この制度は来年四月一日から実施されるものであります。この制度は来年度より制年金を基本とするものであります。現在すでに老令、重度の身体障害又は母子世帯の者あるは将来にわたつて保険料を拠出する能力の十分でない者について

老令福祉年金受給者 二四六人
障害福祉年金受給者 二三人
母子福祉年金受給者 一四人

大 学 志千円
四月下旬選衡委員会において選衡の上決定する。
五、備考
なお不明の点は村教育委員会事務局にお問合せ下さい。

告知板

村奨学金貸与

申込について

本村の奨学金は次のような要領で貸与いたしますので希望者は四月十五日までに村教育委員会に申込み下さい。

一、卒業式
各中学校 三月十八日
各小学校 三月二十五日
二、入学式
各小学校 四月八日
各中学校 四月九日

春の雨 牧水

しとしとと春の雨こそ地には降れ
居るとしもなきわがころかな
けふも雨ふる畦よろこびよほしよほに
濡れて桜も咲きいでにけり
ねられぬままに起きて机の椅子に凭る
家をつつめる夜の雨かな
春雨にみかまきさりて谷ぞを
石のながるるねぎめてぞ聞く
底せしめるかに腐心をして
たから百号と聞きまますと感
激の一層深いものがありま
す。その頃(二十六年)の
村報は毎月発行するのでな
く、隔月位で原稿の集り方
によつて四頁型と二頁型が
あつた様です。その頃は原
稿が仲々集らないで今でも
記憶にあるのは何号であつ
たか号は忘れましたが、四
頁型のものに二頁から二頁
の中段まで「東郷村の経済
白書」をその後の二頁の中
段から三頁迄「見よ東郷村
の振興振りを」という題で
東郷村の社会教育面と経済
振興面を取り上げて書き
立て、四頁にその他の記事
を掲載したことがありまし
た。

百を祝す

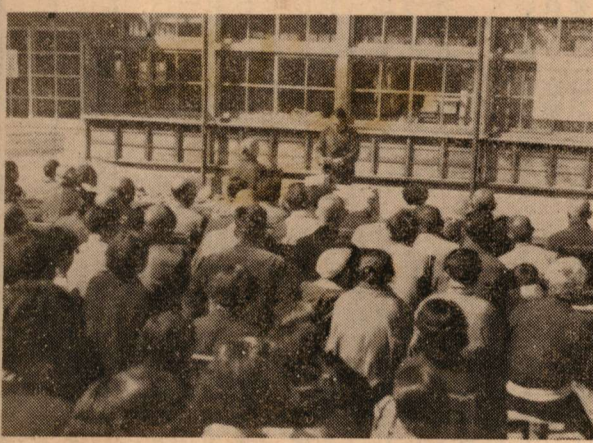
東小 工藤 岩男

皇孫殿下御誕生の喜びのさ
中に、本紙も発刊以来第百
号を迎えました。
テスト百点なら満足の上
はなく、人生百才まで生き
たいと思つて、村報百号も亦
その内容形式共に順調な発
展を辿つたものとして心か
ら喜んでいきます。
百号記念にちなんで、平素
使ひなれてる言葉の中から
百の字を拾ひあげて、その
持つ意味を常識的に分類
してみよう。

村報百号を祝す

東郷中学校 岩切 富二夫

最近社会のあらゆる分野に
亘つて、異常な力を発揮し
ているものの第一は弘報活
動であろうと思われ、あ
まりにも華やかな弘報活動
の脚光を浴びつてしまふと
つたような弊害もなきにし
や。



国民年金証書授与式
上=坪谷小学校にて 下=役場前広場にて

農協の『建物保険』
『生命保険』に村民挙つて
加入しましょう

